

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式

記述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問数は4題から3題に減少し、ページ数(昨年8ページ、今年7ページ)も少し減少したが、設問数はほぼ同じであった。また、論述問題の数(昨年3題、今年4題)は1題増えたが、導出過程を記述する計算問題の数(昨年4題、今年4題)は同じで、全体としての分量はほとんど変わらない。

IIは、題意や条件を正確につかみにくかったり、判断が難しい設問を含みやや難しかったが、Iは非常に易しく、IIIも比較的取り組みやすい。全体としては昨年と同程度の難易度であった。

出題の特徴や昨年との変更点

論述問題、答の導出過程を記述する問題が例年どおり出題された。また、答の数値に関する桁数の指定がなく、自ら判断する計算問題も出題された。

実験装置・実験方法に関する問題も例年と同様に出了された。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述, 計算	理論, 有機	化学基礎 化学	酸と塩基, 放射性同位体, 燃料電池, フェーリング液の還元, ビニロン, 反応熱	易
II	記述, 論述 選択, 計算	理論, 無機, 有機	化学	フェロシアン化銅(II)の製法・構造・性質, ファントホッフが関与した浸透圧の実験	やや難
III	記述, 論述 計算, 選択	有機	化学	アミノ酸とタンパク質, ペプチド	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基礎～標準的な難易度の問題が大部分を占めるが、一部、思考力・応用力を要する問題も含まれる。

基礎力を確立した上で、数多くの演習問題にあたり、思考力・応用力を培うよう努めること。論述問題が頻出なので、理由説明や推論の過程、答の導出過程を簡潔に記述する練習も日ごろから積んでおくこと。また、実験操作や実験結果を予測したり考察する問題が出題されることもあるので、実験に関する問題にも意識的に取り組んでおきたい。